

表 1-中 E.FORUM スタンド（第 1 次案）：中学校国語（八田幸恵編集）

※筆者が作成したのではない課題文や課題の「本質的な問い」と「永続的な理解」については、明らかな誤字脱字や表記間違いでない限り、修正を行っていない。実践者ごとに使用している用語の体系が異なり、それぞれの用語体系を尊重するという判断である。

※国語科に関しては、高学年になればなるほど学年間の指導事項が大きく重複し、また扱う教材も学年が固定されていない（たとえば芥川龍之介「蜘蛛の糸」は小中高で扱ってきた）。そこで、中学校のスタンダードに関しては、学年ごとの課題例は示さず、課題例 1 と課題例 2 とした。

		話すこと・聞くこと
	領域の包括的な本質的な問い	話す・聞くとはどういうことか。
課題例 1	課題例	<p>プレゼン「未来に残したい、この言葉！」</p> <p>あなたは、「未来に残したい、この言葉」というテーマでプレゼンテーションをすることになりました。期日までに次の条件をふまえた構想案をまとめ、提出しなさい¹。（瀧川靖治先生）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 選んだ言葉（30 秒） 2. 言葉選びの規準・理由等（3 分） 3. 説明・根拠等①<例：アンケート・インタビュー>（3 分） 4. 説明・根拠等②<例：語源の説明・言葉との出会い体験>（3 分） 5. 結び（30 秒） <p>※上記 1～5 について絵コンテと説明の要点を書くこと</p> <p>※A4 用紙 1 枚にまとめること</p>
	課題の本質的な問い	うまく話し、聞くにはどうしたらいいのか。
	課題の永続的理解	調べてわかってことや考えたことなどに基づいて説明や発表をしたり、それらを聞いて意見を述べたりするには、説明や発表のどこが大切なのか、何を伝える必要があるのかを意識し、表現を工夫するとよい。また、事実と意見との関係を話の筋道を検討しながら聞き取り、わかりにくいところを質問したり、話の内容や話し方について意見を述べたりすると良い。
課題例 2	課題例	若者言葉について、異なる意見をもった人同士が二人一組になり、それぞれが互いに話し、聞き、さらにはそれぞれが新しい自分の考えをつくる ² 。
	課題の本質的な問い	聞くということは積極的な行為である。相手の話を主体的・積極的に聞くには、具体的にどうしたらいいのか？
	課題の永続的理解	自分の考えと比較しながら聞くことが大事である。要約しながら聞いたり、批判しながら聞いたり、さらには新しい自分の考えをつくりながら聞くとよい。

¹ 京都大学大学院教育学研究科 E.FORUM 『「スタンダード作り」基礎資料集』（以下、『基礎資料集』と示す）2010 年、23-25 頁。

² 『中学国語 2 伝え合う言葉』教育出版より。課題例は大幅に簡略化し、課題の本質的な問いと永続的な理解については文言を修正した。

書くこと	読むこと（物語文）
書くとはどういうことか。	読むとはどういうことか。
<p>テーマを設定して新聞記事を書こう！</p> <p>あなたは「みんなに知らせたい、この話題」というテーマで新聞記事を書くことになりました。取り上げた話題について取材し、次の条件をふまえて構想メモを考えなさい³。（瀧川靖治先生）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 話題について書かれている資料を複数集めてそれらを比較し、共通点や相違点を整理・分類すること 2. 必要な情報をメモ用紙やカードに書き、伝えたいことの内容を決めて記事の構成を考えること 3. 5W1Hが正確に伝わるように文章をまとめること 4. 「見出し」「リード文」「本文」の要点を簡潔にまとめること 5. 判断や評価の理由や根拠を明確に示すこと <p>※A4用紙1枚にまとめること</p>	<p>少年の日の思い出</p> <p>「少年の日の思い出」は、「ぼく」（客）の、心が深く傷ついた思い出が大半を占めている。しかし、この作品は、「ぼく」の話を聞いた「私」（主人）が、過去を振り返る構成になっており、「ぼく」の語った話は、聞き手である「私」によって、語り直されている。「ぼく」が話したことを「私」が文章にまとめるという構造に注目し、次の課題を遂行しよう。</p> <p>あなたは「ぼく」（客）です。あなたは「私」が語り直した「ぼく」の思い出を読みました。深く考えさせられたので、「私」に向かって考えたことを書くことにしました。「ぼく」は何を書きますか⁴。</p>
うまく書くためには、どうすればよいのか。	語り手に着目することによって、小説はどのように読むことができるのか。
<p>関心のある事柄について批評する文章を書くためには、対象を客観的・分析的に見つめ、論理的に考え、判断や評価の理由や根拠を明確に示して記述すると良い。</p>	<p>語り手による語りは登場人物の語りを批評し、相対化する。ゆえに、語り手の語りを読み解くことは、登場人物の語る物語を超えて小説をより深く柔軟に読むことにつながる。</p>
<p>創作した短歌を推敲しよう</p> <p>自分の作った短歌を推敲し、自分の心情を表す短歌にしましょう。その際、提示された条件に言葉を組み替えて推敲し、表現を工夫するためにはどんなことが必要なのか探しましょう⁵。（萩尾徹子先生）</p>	<p>高瀬舟</p> <p>あなたは瓦版の記者です。あるとき次の出来事について取材をし、瓦版を作成するように命じられました。</p> <p>《出来事》羽田庄兵衛という同心が、弟殺しの罪で遠島になった罪人の「喜助」の身の上話を聞いて疑問に思うところがあるからもう一度お調べいただきたいという願い出を出した。このようなお奉行様のお裁きに対する同心からの願い出は異例であり大騒ぎとなっている。京都では庄兵衛と同じように喜助に同情する意見もあれば、お裁きの通りに島流しが妥当だという意見もある。</p> <p>◆記事の構成は</p> <ol style="list-style-type: none"> ①庄兵衛が願い出た理由のあらましを説明すること ②庄兵衛の願い出をお奉行様は退けるとするか、受け入れると思ふか、その見通しを明記すること⁶。（山内雅雄先生）
短歌で自分の思いを伝えるためにはどのような工夫が必要になるか	<p>○語り手の視点や登場人物の視点などを意識して読むことで、どのようなおもしろさが生まれてくるのだろうか。</p> <p>○視点を意識することで表面的なストーリーとは異なる潜在的なプロットが浮かび上がってくるのはなぜか。</p>
鑑賞文を分析するとは、その筆者の書きぶりを分析することであり、短歌の創作をすることは、自分の感動を凝縮した言葉に込めることである。短歌の鑑賞文の分析、短歌の創作をすることは、表現の豊かさを味わい、適切に書く能力を身につけることができる。	<p>○小説の中で視点は「ことばの仕組み」を分析することで発見される。</p> <p>○小説を読むときに、語り手や登場人物の視点は、その視点を通して読み直すことで表面的なストーリーとは異なる潜在的なプロットを浮かび上がらせ、様々な読み方を生み出す規準となる役割がある。</p> <p>○小説のおもしろとは、語り手や登場人物の視点の発見が表層のストーリーの因果関係（プロット）中心の読みから深層のストーリーの因果関係（メタプロット）中心の読みに変化させ、それによって<了解不能な他者>の存在に気づくことである。</p>

³ 『基礎資料集』23-25頁。

⁴ 『新しい国語1』東京書籍のもとに八田作成。

⁵ 『基礎資料集』17-21頁。

⁶ 『基礎資料集』33-38頁。もともと高校の単元として設計されたものであるが、森嶋外「高瀬舟」は中学校でも扱う教材であること、また「語り手」を読ませる貴重な実践であることから、中学校のスタンダードに掲載した。